

門藏 3
號 608
卷 1-子



但合
湯嶋邑群玉堂
中屋世宗衛門
馬所



昨日^キ旅^リ今^イ日^ニ驟^シ明^ク日^ケ者^ノ未^ダ太^ク越^ス
邊^ノ巖^ノ山^ノ之^ノ岑^ノ奈^レ連^テ哉^ニ空^ク行^ク月^ノ乃^シ
須^レ惠^メ能^ク自^ラ雲^ト矢^ク唼^シ而^シ于^テ着^キ爲^ス撥^ス
巡^ル於^テ国^ノ々^ニ新^シ剝^ス桑^ノ門^ノ負^ヒ笈^ヲ飛^ビ錫^ヲ
行^ク程^ノ駕^カ丁^ノ少^ク六^ツ馬^ト士^ト与^テ作^ル于^テ話^ス
知^ル新^ク往^ク山^ノ柴^ノ刈^リ尉^ノ來^ル川^ノ洗^ヒ濯^シ于^テ
颯^シ温^ク故^ク其^ノ妙^ク之^ノ爲^ス不^レ思^フ義^ト夏^ノ而^シ

林深

也飛鳥川爲變行狀而也每
 禿石筆先有其蒼坊主草稿矣
 書賈二酉堂設之而與題之云
 不直採有佟此里人談爾云
 東都俳林菊采山翁沾涼述



諸國里人談卷之一

一 神祇部

- 和布刈 豊前
- 艾祭 出羽
- 麻伏神軍 佐渡
- 龍王祭 淡路
- 人魚 若狹
- 梅園社 肥前
- 熱田的射 尾張
- 筑摩祭 直江

- 諏方祭 信濃
- 吉備津釜 備中
- 飽海神軍 出羽
- 直會祭 尾張
- 龍地 出雲
- 大頭社 三河
- 常陸帶 常陸



二 釋教の部

- 佛舍利 大和
- 大觀音 泊瀬 藤金
- 善光寺 信濃
- 鬼押 伊勢
- 高野禁箇 紀伊
- 三猿堂 近江

- 大佛 奈良
- 嵯峨釈迦 京都
- 石羅漢 山城
- 金印 豐後 大和
- 雷鳥 相模
- 加賀

諸國室人談卷之一

菊岡木山翁著

一 神祇の部

○和布丹

豊前國門司國早朝明神の事云々海なる事云々云々の
陽あり常に二十陽行の水舟に人全てその先へ去るに
毎年十二月毎月の子と丑の刻の間に社人宮殿の宝鏡を
胸にあてて石階を登りて海舟に入ると其の時潮たかへ
漲と云々海屋の和布と一様なりと云々云々云々
二種ありて潮と漲との雅ありけし時ハ社民家の燈火
海と掛りぬの火と云々云々を解しその部限の事
其時をり浪大云々云々云々海舟に入らん事

氷指

そ後方湖氷の時ささくるとして流るるをたて
そ後人馬氷のよを通りてそ又流るるを通りて止

麻の原

条の時七十五段 年たうら

甲斐一國をふる川事あり

すの海を待てそ又たふるの浦くくの中は物ね

○芝祭

出羽國大泥村の毎年四月八日芝祭とらあり其前
大土池あり一山の伏池のきり臨んで新し時
の芝四五尺ほど敷て池よりして漂はるるを芝舟と
そ其所寛くして遊び遊んで時猶勝を絶
なく斬の芝たうらひゆりて世に金貨事ありて

しきの祭あり尚下いそ降佛を安ん一山四十八寺
る山伏指のあり此日近西うらの石を懸集る

○吉備津釜

備中國吉備津釜に釜殿とらありそに大なる釜あり
御祭の人吉凶を何れ社人王禰をして一ツの幣と
釜中いりて法を修めんと釜鳴動はそのみき
取十所いきとるを動するといふし其言ゆみて
成就不成就病人收金不收を考ふるあり

高社の中を陽郡の河板釜川のひり備前界

○麻伏神軍

佐後國麻伏神毎年二月九日大雨降りて夜ふ入る

大まうのわしとぬしとよりちのちりおま目控めて晴天なる事例年
あつり土俗や夜に神軍ありとらひつててと出をせし
飛りてあまの日社にのこに如き矢の根起り尖矢
から海にかけ矢をくさぬくの形ありて大さき年の暮の根の
あつり人民を招ひてちとん回りの信を招ひてせむ
あり

○飽海神軍

出羽國庄内飽海社大物忌太神と号す祭神倉橋禰神
年に一度凡烈しく震動し天氣常に異常なる雪霰の
中子矢の根交りて降るしと神軍とて土人なき怖
れ後本法よりあつりて穢にわたり穢天墓殿木の穢
勢ありと雷と雷と云々席伏の矢の根よりあつり

奥列参列の中はあり常列参列はありと云々是則
本年にの雷撃雷斧の類あり

○龍玉祭

淡路國由良の陵八面西の海中に圍り三里とらうの小島あり
いふと平生とら大石海ありとら方之間ありの平なり
不あり毎年六月三日由良の八幡の社祭ありけるに供物
を備へ祭儀を施しを龍王祭とらしは時を以て
のふの是に大小の龜教方群を導りて海とを塞く祭事
さぬとて海に去る今に例年あり
祭は備へ祭儀しは備へ祭武文は備へ即鳥羽深由
小祠あり今并天に祭あり

龍王祭

吉備津乃釜



○直會祭

尾張國中為那國府宮 清洲ノ近所 毎年正月十一日
 直會祭とあり 神官薩摩をきて道の邊より出て往來の
 人を一人捕らるるものにて其日の法人戸出をばくしひ蘇合
 龍飯はくはきとさきとせして逗留するに斯くも
 自然とあつたのめと捕らるる者身外に其人を沐浴と名津衣
 と著て神宮よりつとより大まらる祖敷一茶本あつて他は
 生膾箸をすしを食ふ又人形と仰て捕らるる人の代りて
 赤那板のくろく居てその傍に捕らるる人を居しぬ神前
 子備へ進する事一夜し翌朝神官より伴の備物今
 には神宮よりくろくまをり大まらる薩摩を仰て彼人背に履

世青初一更文を首にひきて速敷に走り行て其の倒る
絶入を少時ありて正氣のつゝ元氣のつゝその倒るる
土條とのめて塚と築きけ神事社を深細と云
真清田内神 奈神國常立尊 當國の一宮

○人魚

若狭國大飯郡津波嶽の麓に山八分より上を
津波有神の住者人魚なりと云ひて其の室永年中乙未村
の猿降津波より出るに岩のつゝ即ち其の跡に居るその
尺もて其の人間にて襟に鶴冠のつゝと云ふことあり
まゝにその下は魚なり何れかおぼくおぼく擧げん事
別死せり海に投入しゆるげりるれり大風起り海

三月十七日正三時をうりて大地震一津波嶽の村より海を
すく地裂てし見村に墮入るるも明神の祟と云ふ

○龍地

出雲國秋鹿郡佐佐社に古く社あり十月十五日
すくのるに沖より一尺をうりの小蛇一文浪よのりて磯を
六の地金より彩色のつゝ其のつゝ一宮を龍地と云ふ
神宮潔斎して汀より其のつゝのつゝ海三深と云ふ
其のつゝ意地そのつゝのつゝ曲り形と云ふ神事と進んで
足海神より佐佐社一宮のもの

奈神伊弉諾伊弉册の二神十月の陰神崩落月
なまそ法神このつゝ集り其の故に昔より神在月と云

○梅菌社

肥前國長崎元山と云ふ者あり平日天満を以て信を天守府
の傍梅の枯條より聖信を彫刻して朝夕ありて海を一日
途中あり不來口論ありし教をいけり相もすこ人と
詠一進人きりし梅を削自教してかくかくと教を
くくありて其の如くして生れし一死ありて其の如くして
報償を待たざるも身は又の海ありて其の如くして血流れり
大に驚惶一是神の裁難く代りし其の如くして梅を削
天守と禰一長崎ありて元禄年中の事也

○大頭社

大頭社 大尾社 下和田あり
三河國豊後郡上和田村に大頭社とあり深文あり

青の百丈と長く常く口より人をも井のまきり社をくわ
くくしてりし其の如くして梅を削くくしてりし人ありし事
もさるし神ありて其の如くして梅を削くくしてりし事
ありし事ありてりし事ありてりし事ありてりし事あり
立命定茂一時執して山より一樹の下に梅を削くくしてりし事
ありし事ありてりし事ありてりし事ありてりし事あり
いふ所の百丈梅を削くくしてりし事ありてりし事あり
坊合睡眠の場を削くくしてりし事ありてりし事あり
蛇の形を削くくしてりし事ありてりし事ありてりし事あり
彼大の如く削くくしてりし事ありてりし事ありてりし事あり

○勢田的射

▲東君用百甚威シサセ玉フ
尾張國勢田村の毎年正月十五日的矢あり六百人の社あり

事ノ得_レ推_テ天皇十五年_ノ寺_ヲ造_ル慈_ニ成_ス勅_ス以_テ
 馬_ノ寺_ヲ別_ニ號_ス七_ノ德_ノ寺_ト 聖_ノ國_ノ寺_ト 宝_ノ龍_ノ寺_ト 來_レ立_ル寺_ト
 住_ス生_ノ寺_ト 鳥_ノ路_ノ寺_ト 法_ノ隆_ノ学_ノ同_ノ寺_ト 篤_ニ乃_リ 八_ノ宗_ノ魚_ノ寺_ト

○大佛

南都東大寺ハ聖武帝ノ詔_ニ於_テ天平十五年_ニ造_ル以_テ國
 滋_ニ樂_ス之_ヲ以_テ大佛_ト造_ル同十二年_ニ佛_ノ像_ヲ成_ス就_ス
 大寺_ト造_ル遠_ク新_ニ羅_ノ天_ノ平十七年_ニ造_ル多_ク郡_ノ子_ノ中_ノ也_ト遷_ス
 蕃_ニ匠_ト 編部百世 益田德手 佛_ノ工_ノ 國_ノ公_ノ店_ト 治_ニ工_ト 扶本男王 高市真店
 開_レ元_ノ道_ノ師_ト 婆_ノ羅_ノ門_ノ僧_ト正_ト 咒_ノ願_ノ師_ト 行_ノ基_ノ僧_ト正_ト
 天_ノ平_ノ勝_ノ室_ノ四年_ニ四月_ニ九_日供_ス粮_ト 天_ノ子_ノ行_ノ幸_ト
 道_ノ師_ト 婆_ノ羅_ノ門_ノ僧_ト正_ト 咒_ノ願_ノ師_ト 道_ノ璿_ノ律_ノ師_ト

大佛座像高五丈三尺三寸

面_ノ長_{一丈六尺廣九尺寺} 眉_ノ 五尺四寸五分
 目_ノ長_{三尺九寸} 口_ノ 三尺七寸
 鼻_ノ長_{三尺} 穴_ノ徑_{一尺} 頸_ノ 二尺六寸五分
 耳_ノ長_{八尺五寸} 螺_ノ髮_{九百六十六} 高_{一尺}
 額_ノ長_{一尺二寸} 肩_ノ徑_{二丈八尺七寸}
 胸_ノ長_{二丈九尺} 腹_ノ長_{一丈三尺}
 肘_ノ腕_{一丈五尺} 臂_ノ 一丈九尺
 掌_ノ長_{一丈三尺} 中_ノ指_{五尺} 周_ノり_{四尺五寸}
 脛_ノ長_{二丈三尺八寸} 膝_ノ厚_{七尺}
 膝_ノ前_ノ徑_{三丈九尺} 足_ノ裏_{一丈三尺}

土蓮花 周三十四丈七尺 高八尺

花 二百八十枚 周二十一丈四尺

蓮花銅座 徑六丈八尺 高一丈

基 周二十三丈九尺

○治承四年十二月廿八日平室衡の兵火よりて灰燼となる
後白河法皇源賴朝より後深草院室深草院に勅して再興
室深草院を勸化し大佛殿奉寧悉成し
建久六年三月十二日借頼

進師 權僧正覺憲 咒願師 權僧正勝賢

後鳥羽院行幸 源賴朝上洛

番匠 物部為聖 佛工 康慶 運慶

冶工 宋傳和桂 定覺 快慶

佛を鑄金洞の入り

黄金 一万四百三十六兩

唐銅 七十三万九千五百六十斤

水銀 五万八千六百二十兩

白銅 一万二千六百二十斤

金箔 十五万枚

炭 一万六千六百五十六石

○永祿十年松永澤正兵衛の火よりて河原院
為るる為國の画工山田道安より老財室と稱すれり補
延室の須當寺の僧龍松院殿造立の大乳とありて
勅許合命と奉り為國を勸進し堂を造る

創始十僧供養負享五年四月二日棟上室永二年四月

十日堂供養室永六年四月八日

別號 城大寺 大華嚴寺 恒説華嚴寺

國分寺 金光明四天王護國之寺 三論華嚴 八宗兼学

○京都大佛殿方廣寺天正十四年大同秀吉公建立あり奉る
 釈迦の大像ハ華嚴の法方廣佛の辨相と云りせりと故
 方廣寺と号大徳寺の古徳和尚を以て堂に任せしむ
 之れと云と成徳せしむ遷化せざる由子聖護院道隆
 別當職と有り度長元年閏七月大地震に佛像破壊以
 秀吉云云云々佛の知見と云りて何ぞ其身の破壊と云る
 信と云りたりはひて矢と云ふと材と云ふと後信別
 善光寺の如來と信しては殿の本と云り時方以殘悪酷
 烈なる像子飛雪天女降多氣人を信し云と如來此
 崇なりと云秀吉云八月十八日に薨逝せし其の年十七日
 佛と善光寺人還きし其のころ内大臣秀吉云初佛と仰

し先と稱す度長七年秘造の目佛の後の中より火出堂
 舎焼失を始とて堂を建じと云と則先大佛と稱す
 後堂と稱し一むと云 雍列府志
 佛軀長十丈 但座檀と云

- 面長 一丈八尺 眼 横五尺五寸 竖二尺
- 鼻 高五尺寸 横四尺 鼻穴 二尺
- 口 横八尺 竖三尺寸 耳 長一丈
- 掌 一丈二尺 指ノ端ニ至 拇 周六尺寸
- 膝 周十三丈八尺 足心 一丈四尺 横七尺
- 羅勃 救三百五十 大り二尺五寸 白毫 徑二尺
- 後光 高十八間 横九間 蓮花壇 各八尺

堂棟 高廿二十五間

梁間 二十七間五尺五寸

桁行 四十五間二尺五寸

柱 九十二本 徑五尺 四間隔五

○大觀音

和列泊瀬山長谷寺の本堂十一面觀音立像二丈六尺方
方八尺の巖石を座とし紅列高鳩郡三尾山の靈木より
法道仙人と比丘道力と勤めてありて建 天平五年五月
十八日開眼同十九年堂成就其後好及空統ありと云
佛急なり感多神の焼く事ありと云と即頭山寺
去て焼くこと佛工の誓文會誓主勤なり
開帳の黄金一枚開帳又黄金一枚一七日のるありて
尋常の開帳の帳とりて巻く此より巻くことありて

○相列瀬余海光山長谷寺 浄土宗 本堂十一面觀音立像

二丈六尺二分和列長谷寺の本堂の表より佛師春日造之

毎年六月十七日會日奉納群集は 坂東唯後四番

常の堂の扉と開く事なればなり 青紙十疋の開帳は午時

燈籠に灯と野下車と即頭の人と云へり上りて海

○武列の長音山茅橋寺陀山長谷寺 曹洞宗 本堂十一面

觀音立像二丈六尺即頭和列長谷の本堂より作しけり

竜雲院より酒池のよりあり天正十二年に遷下用山門菴和尚

常に帳と初より中を休に

佛工誓文會誓主勤に見牙し河内國春日村の人と改に

世より春日の作と和に三よりもに河作し

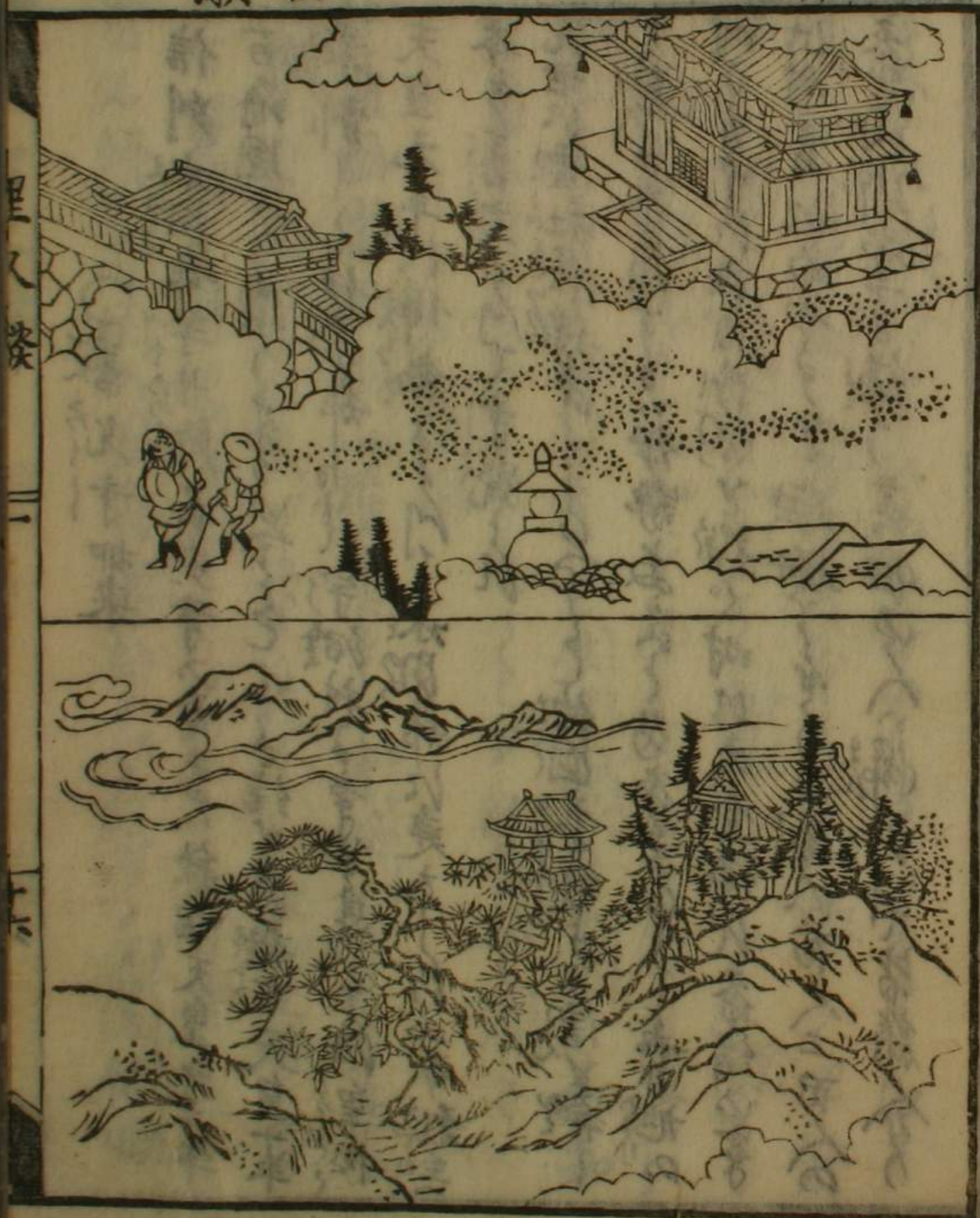
○ 峯嶺 釋迦

山脈修海清涼寺の形を本より一條段の所より東大寺の齋然
 法指宗極より入て聖禪院よりおろく僧壇中二の摸像より
 乃佛工濃業と雇て摸刻しつゝおもとと得鄭仁佐つた
 多くゆり又一切徑五千四十八卷十六羅漢の畫像と獲く
 蓮臺寺の白大白公脚車よりおもとと洋を其優渙の
 摸像よりおもとと今修海の清涼院よりなり 元亨教書

大念佛 毎年三月九日より十五日にむかふ 弘安二年に始
 所身戒 毎年三月十九日
 本寺 舊の融大良の山庄棲霞段觀なり 貞觀年中に改く
 寺より空房より賜ふ任持恒寂といふ用組より

大佛

初瀬



とて人あつた力を合せ一夜の中成就せしむ

○又大和國壺坂のひら八所なる高番あり

刻の五百羅漢千持の玉兩部の曼陀羅あり奇

異の巧に凡作あり○又ちり海の中花地の也を表村凡村

○鬼押

勢州津の觀音堂に毎年二月朔日修治あり鬼押

とありありは本堂の海中より出現の像をむく竜神

あまをせしとて棄けありと追てひるるる

云り赤音の鬼の面よりもの二人異形の装束を

たあよる子として究竟の力者二人宛お促ひるる

勢へる後い又二人褚態と被るもの一人は草にま

支那書後に連り堂のふと巡る事三遍方浦方深方の

者として教百人程の棒とてこれ持て二處あるうらに役

を舟幸した名のもり尻骨の鼓事とてし一鬼鬼中

を敲うたたした名のもり尻骨の鼓事とてし一鬼鬼中

ざりなりいふもしては鬼と深くおくを奉りあり

智く舟得されとて船とていひてて命とあり

おんざり事とてる儼の鬼の窟と人ありとて一寺教とて

そりてとて遠いれありまたしけり同日町中にては浴衣一衣

に髪を乱し禱事とて抜方のまねと持十人ありか千人

はしはく一ひありいよくくしてて歩ゆかり是もま

花神と退退する遺傳し俗に觀音寺と云

をまき今くは流く諸と所傳を解く神童指と承を
勤に流氣涌出と又方四十里に雷響せれば二の半今も至
かりは○春澄の越茶麻生津の産又ハ安角母の修習と氏
夢に白玉懐中に入ると及く及る自感十一羊説と世俗
越の大徳と彌せり平日のうらま金のきり物と病の
その其緯の成を食と事と瘡と事と常鬼神と事と事

○三嶽堂

此處の之松堂徳松堂天宮の不見不厨不言と三嶽に表と
土の嶽と仰り申ふ石見石見の石見と後形と又申の石見と
尺とさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
市の唐申振子に瓶と春と申のひし 皇人談一之終

若生面石

兵三津縣重臣圖

あうま
有るに堅相定候
松平龜菊
平松辰之補

首
目
心
洗
桐

春
心洗桐

